

大成建設ハウジングが建築家 隈研吾氏とコラボレーション「モクコンの家」発売 「パルコン」にコンクリートの強さと木のぬくもりを兼ね備えた新たなデザインシリーズが誕生

大成建設ハウジング株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:中村 有孝)は、日本を代表する建築家隈研吾氏とのコラボレーションによる壁式鉄筋コンクリート住宅「パルコン」の新たなデザインシリーズ「モクコンの家」を2023年3月16日(木)より発売いたします。

あらゆる災害から守る「パルコン」の強さと快適性はそのままに、木のやさしさとぬくもりのある外観とテラスを併設する居住空間をデザインいたしました。大成建設ハウジングから新しい提案をお届けいたします。



モクコンの家「ノキテラス」 2階建て



モクコンの家「ハコテラス」 3階建て

《概要》

- | | |
|----------|---------------------------------------|
| 1. 構造 | 壁式鉄筋コンクリート構造 |
| 2. 用途 | 戸建住宅 |
| 3. 設計対応 | 規格設計 ※ノキテラス 2階建てモデル1戸、ハコテラス 3階建てモデル1戸 |
| 4. 発売地域 | 関東、東海、関西、九州(一部地域を除く) |
| 5. 発売開始日 | 2023年3月16日(木) |

Palcon

モクコンの家

Palcon with 隈研吾 特設サイト <https://palcon.jp/collaboration/>

《背景》

総合建設業である大成建設株式会社は、1969年に戸建住宅事業に進出し、壁式鉄筋コンクリート構造の「パルコン」の販売を開始いたしました。弊社は、2008年に“災害に強い家を日本に普及させる”という使命とともに、大成建設株式会社の戸建住宅事業を承継し、大成建設グループの一員として戸建事業及びリフォーム事業を担っております。

大成建設株式会社は、隈研吾氏と国立競技場をはじめ多くの物件にて関わりがあり、大成建設グループである弊社と新たな取り組みを模索した結果として、パルコンをベースとした隈研吾氏とのコラボレーションシリーズ「モクコンの家」が誕生いたしました。 ※「ノキテラス」と「ハコテラス」の2モデル

〔隈研吾氏 インタビュー〕

隈研吾氏、「モクコンの家」を語る。

隈研吾氏による「モクコンの家」にはどんな想いが込められているのでしょうか。

自身がデザインのポイントについて語ります。

ーインタビュアー

パルコンについて、どういった印象をお持ちでしょうか。

隈研吾氏：

「パルコンには、コンクリート住宅の総合的な強さを感じます。」

住まいは人間の生活を守る、そして人間自身を守る非常に大事な器だと思います。そこでは何よりも安心感が求められます。大成建設ハウジングが手掛けるパルコンは、コンクリート住宅ならではの耐震性が安心感につながり、安らぎという家の基本的な条件を満たしていると考えます。また、よく知られているように耐火性、防音・遮音、断熱・気密など、他にも優れたポイントがたくさんあり、さらに劣化に強く耐久性がある点はまさにサステナビリティという時代の要請にも応えていると思います。

いま、コロナ禍を経て住宅の役割が増えたと感じています。これまで家は社会とは切り離された場、という位置づけでしたが、社会と個人の接点として住宅が意識されるようになりました。仕事をする場所、人と集う場所、クリエイティブな場としての機能が求められます。そうした社会的な役割を果たすためにも、コンクリートという災害に強い素材こそ大切なのではないかと考えています。

ーデザインのこだわりについてお聞かせください。

「木のぬくもりと、半屋外スペースです。」

私が携わる建築では、木のぬくもりが大きなテーマです。人類にとっていちばん古くからの友人として「木」がそばにありました。手触りのあたたかさ、やわらかさをいつも感じられることが大切なのです。

今回のパルコンでも木材をふんだんに使い、見た目にも手触りとしても、自然のやさしさが感じられることを重視しました。「ノキテラス」の大屋根とファザード、「ハコテラス」の木製テラスなど、ぬくもりある木の質感が特色です。

また、屋上の庭園スペースや、室内と屋外をつなぐテラスなど、これまでの一般的なテラスやバルコニーを超えた、空間の豊かさを持った半屋外スペースを設けました。どちらもコンクリートならではの堅牢性によって、半屋外を生活の場として使用することが可能になっています。屋外でも人がゆったりと過ごせることを前提で考え、いろいろなシーンの演出を想定してみました。外気の心地よさを、広がりのあるスペースで感じることができます。特に「ハコテラス」はバルコニー上部の開放感に注目していただきたいと思います。

ー玄関から続くミュージアムは、何を目的に作られましたか。

「住宅と社会をつながたい、と考えました。」

今回のプランは、アプローチから玄関に入り、そのままミュージアムスペースが連なっているのが大きな特徴です。アフターコロナを見据えてそこにいろいろな人々が集うシーンを思い描きました。仕事をする場、クリエイティブな発想が生まれる場として機能することはもちろん、住宅と社会がつながる際のひとつの形を体験していただければと思います。

ミュージアムは住む人の創造性の拠点となると同時に人を招き入れて打ち合わせや交流するスペースにもなる。またその場にいる人がリラックスできることも大切。多目的でフレキシブルに活用できるスペースです。

ーZEHへの対応についてはいかがでしょうか。

「サステナブルなデザインと技術があります。」

これからの住宅を考える上で、持続可能性は大きなテーマです。ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)に対応しているかどうか、住む人もそこに集う人も、省エネルギーに関心が集まる部分だと思います。

今回の家はZEH対応設備だけでなく、木材を多用した住み心地の向上、十分な植栽スペースの想定などトータルにサステナブルであることが特徴です。

素材や構造といったエンジニアリングだけでなく、デザインとエンジニアリングが一致している部分をぜひ体験していただきたい。そうした点で、サステナブル住宅のひとつのモデルになるだろうと考えています。

ーこの新しい邸宅は、一言で表すならどんな家でしょうか。

「住む人が、自分の創造性を発見する場所です。」

この家は住む人の「自由」を信頼している部分があります。空間はなるべくシンプルに作り、住む人がどんな風にその空間を使いこなしていくのか。住む人の自由、住む人の創造性を活かす場所がたくさんあります。ぜひクリエイティブに住んでいただければと思います。

半屋外の空間にいろいろな家具を持ち込んで、いかに日常的な場として使いこなすか。屋外を生活空間に組み入れるのは新しいトレンドでもあり、そのトレンドをご自分のセンスで実現できるのです。

そしてミュージアム。自分のコレクション、蔵書などで満たしたクリエイティブなスペースとして、ぜひ自由に使いこなして欲しいと思います。この家がキャンパスだとすると、皆さんがいままで見たことのない絵を描くだろうと期待します。家が、自分自身の新しい創造性を発見する場所になるのです。

新しい創造力がコンクリート住宅という安心感の土台の上で開花し、サステナブルに社会と繋がるでしょう。



取材時画像

隈研吾氏プロフィール

1954年生。1990年、隈研吾建築都市設計事務所設立。慶應義塾大学教授、東京大学教授を経て、現在、東京大学特別教授・名誉教授。30を超える国々でプロジェクトが進行中。自然と技術と人間の新しい関係を切り開く建築を提案。主な著書に『全仕事』(大和書房)、『点・線・面』(岩波書店)、『負ける建築』(岩波書店)、『自然な建築』、『小さな建築』(岩波新書)、他多数。

《モデルプラン》

◇「ノキテラス」2階建て 延床面積 146.24 m²(44.23坪)

《特徴》

木質の大屋根の下のワイドに広がるパノラマテラスが内外を繋ぎ、ダイニングキッチン上の吹抜けが住まいの開放感を高める2階建てモデル。

《内観CG》



吹抜けのある開放的なダイニングキッチン



小上がり空間を併設した落ち着いたあるリビング



◇「ハコテラス」3階建て 延床面積 162.80 m²(49.24坪)

《特徴》

ぬくもりのある木の質感に包まれた半屋外空間の2つのテラスが内外を繋ぎ、快適性を向上させる3階建てモデル。

《内観CG》



天井が高くガレージにも視線がのびる開放的なミュージアム



屋外を快適にする木に包まれたジャイアントテラス



《本件に関するお問い合わせ先》

大成建設ハウジング株式会社 広報・企画部

〒163-1019 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー19階

TEL: 03-5339-8013

E-mail housing-kk00@pub.taisei.co.jp (担当: 渡辺)